



受賞作品集 2020



- 主催 株式会社共同通信社
- 協賛 キックマン株式会社
- 後援 全国小学校家庭科教育研究会、全日本中学校技術・家庭科研究会
- 協力 株式会社シジシージャパン

(株)共同通信社では、学校で取り組んだ「弁当の日」や、自分で料理をした体験談を小中学生対象に募集しました。全国から2951点の作品が寄せられ、審査の結果受賞作品が決定いたしましたので、まとめてご紹介いたします。

受賞作品

賞	題名	都道府県	学年	氏名
小学生	弁当の日賞	新型コロナとお弁当	沖縄県	5 吉川 結尋
	キッコーマン賞	はじめておべんとうをつくったよ	群馬県	1 飯塚 惇友
	共同通信社賞	半年がかりのお弁当	東京都	5 小宮 ゆき丞
	特別賞	おなじあじのするかぼちゃのもの	東京都	1 鈴木 裕人
	特別賞	ぼくのとくせいべんとう	東京都	1 武井 健
	特別賞	与論の味・みじまい	鹿児島県	4 柳澤 珠理銘
	特別賞	ママちゃん大スキべんとう	愛知県	5 杉浦 ゆいな
	特別賞	食べた人も作った人も笑顔になれる	青森県	6 田嶋 未実
	特別賞	お弁当作りは私に任せて！	徳島県	6 湯浅 慶香
	佳作	母とつくったお弁当	福島県	5 尾股 心菜
	佳作	おいしかったチャーハン弁当	鹿児島県	5 本畑 遼太
	学校賞		秋田県	
中学生	キッコーマン賞	祖母が教えてくれた「生きがい」	広島県	2 新居 モエ
	共同通信社賞	父の姿	東京都	3 田口 笑未
	CGC賞	感謝	山口県	2 角田 奏心
	特別賞	大切な日に	宮城県	1 佐藤 美七海
	特別賞	拡がれ、お弁当の日！	東京都	1 辻野 まなカロリナ
	特別賞	幸せで恵まれている、命を頂いて、料理をし、弁当をつくり、母の大変さを知った自分	福岡県	1 坂本 篤郎
	特別賞	ステーキッキング	山梨県	2 田邊 麗
	特別賞	母さんの必死な笑顔	福岡県	2 山内 晟也
	特別賞	転校と弁当の日	鹿児島県	3 松野 さくら
	佳作	母のお弁当	京都府	2 川上 瑠唯
	佳作	弁当がつくるもの	青森県	3 奈良 風花
	佳作	お弁当におかずは入っていますか	福岡県	3 坂本 桃香
学校賞		茨城県		江戸川学園取手中学校

【審査講評】

審査員のみんが感動しました。料理を通して、家族や仲間とより深くつながっていく笑顔の情景が頭の中に浮かんできたからです。誰かに喜んでもらおうと台所に立った子、写真や絵に作文を添えようとペンを執った子、全員が素晴らしいです。ここに紹介する皆さんは、受賞を思い出すたび、特にニコツとして欲しいな。

2021.02.10 竹下和男

審査員 (敬称略 50音順)	氏名	肩書
	井上かなえ	料理ブロガー・料理家
	大津山 厚	キッコーマン株式会社 執行役員 コーポレート政策推進担当部長
	瀬川 成子	一般社団法人共同通信社 文化部記者
	竹下 和男	「弁当の日」提唱者
	安武 信吾	ドキュメンタリー映画「弁当の日」監督・「はなちゃんのみそ汁」著者

※ 応募作品は意味が変わらない範囲で、誤字脱字を修正しました。

👑 キックマン賞 👑



お花見弁当

あらい
新居 モエ （盈進中学校 2 年）

祖母が教えてくれた「生きがい」

私の初めてのお弁当作りの思い出は 3 年前の春にさかのぼります。私は料理がとても苦手です。しかし、そんな私がふとしたきっかけでお弁当を作ることになりました。

毎年、私たち家族は、祖母たちとお花見へ行くのですが、そのお弁当作りは祖母と私の母とが担当しています。しかし、私が小学 5 年生のその年、お花見のお弁当作りの日に母が行けなくなり、そのかわり急遽私がお弁当を作ることになったのです。それが人生初のお弁当作りのきっかけとなりました。

初めてとりかかったのは定番の玉子焼きです。卵の黄身と白身が分離しないようにしっかりと混ぜ、砂糖にしょうゆ、とりがらで味つけをし、何回にもわけて卵を入れきれいな形になるように焼き上げました。次におにぎり。私はここで祖母からきれいに握るテクニックを学びました。お米を持つ前に手を塩水でぬらして握るのです。きれいな三角形にするのは難しかったけれど、なんだかとても楽しかったのを覚えています。沢山のおかずを作っている間、私はあることに気が付きました。それは祖母が料理をしている間中ずっと鼻歌を歌っていたことです。私は気になって聞いてみました。「料理、楽しい?。」と。そうすると祖母は「これはね、私の生きがいのよ。」と答えました。

私にはその時祖母が言った「生きがい」という意味がよく分かりませんでした。たしかに祖母の家へ行くとき毎回キッチンで料理をしている祖母の姿を見かけます。そして、いつもおいしいご飯を食卓に並べてくれます。だけどやっぱり生きがいという意味が分かりません。

お花見当日、私と祖母でつくったお弁当を桜の下で広げました。色鮮やかなお弁当を囲んでそこにいるみんなが「おいしい。」と言って食べてくれました。祖母はとても嬉しそうな顔でその様子を見ていました。祖母が言う「生きがい」とはこういう事なのかもしれない、私はその時思ったのです。

中学生になって毎日、お弁当を作ってもらっています。母は何も言いませんがきっと私の「おいしい」という一言を思い描きながら作っているのだと思います。祖母が教えてくれた「生きがい」とは家族を思う心なのかもしれません。私はこの作文を書いて、改めてお弁当を作ってくれる人の思いをかみしめながら食べたいと思うようになりました。そして、私にこのことを気づかせてくれた祖母にも感謝の気持ちでいっぱいです。